高崎市文化財調査報告書　第 466 集

柏木沢中沢遺跡

― 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

２０２１

株式会社 杜丸不動産
高 崎 市 教 育 委 員 会
有限会社 高澤考古学研究所

例　言

1　本書は、群馬県高崎市箕郷町柏木沢字中沢 183 番地 7、186 番地 1、187 番地 1、189 番地 9、189 番地 10 に所在する「柏木沢中沢遺跡」（高崎市遺跡調査番号 788）の発掘調査報告書である。
2　調査は、宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
3　発掘調査から整理作業を経て、報告書刊行に至るまでの一連の作業は、株式会社 杜丸不動産様の費用負担によって行われた。
4　発掘調査および整理作業は、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、有限会社 高澤考古学研究所が実施した。
5　調査体制は、以下の通りである。
高崎市教育委員会文化財保護課・有限会社 高澤考古学研究所　澤田 福宏
6　発掘調査は、令和元年 12 月 24 日から令和 2 年 1 月 22 日までの期間で実施した。調査面積は 90㎡である。
7　本書の編集は、有限会社 高澤考古学研究所の澤田が行った。執筆は I を高崎市教育委員会文化財保護課が、それ以外を澤田が行った。
8　基準・水準点測量および遺構平面測量はタナカ設計に委託した。
9　空中撮影は加藤空撮に委託した。
10　遺構および遺物撮影は、澤田が行った。
11　発掘調査から整理作業に従事した者は、以下の通りである。（敬称略、50 音順）
小林 貴子・澤田 美枝子・澤田 恵美・清水 萬年・静野 佳春・円谷 純・渡 明秀
12　発掘調査により得られた資料および出土遺物は、一括して高崎市教育委員会に保管してある。

凡　例

1　遺構挿図中に使用した方位記号は座標北を、水準線は標高を示す。座標は国家座標Ⅸ系を使用した。
2　土層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
3　本書で使用した地図は、第 1 図が国土地理院発行数値地図 1/25,000 地形図を、第 2 図は国土地理院発行数値地図 1/2,500（高崎市都市計画基本図）を使用した。
4　2 頁の遠景写真内の遺跡位置は、およその場所である。
5　掲載図の縮尺は、各キャプションおよび各図に示した通りである。
6　挿図中に使用した断面図において、遺構部分は太線で表現した。
7　本書で使用した火山噴出物の記述表現で 3㎜以上の発泡したものを『軽石』それ以下を『粒』とした。
8　本書で使用した火山噴出物の記述は以下の通りである。

As-C　…… 3 世紀後半降下「浅間 C 軽石」
Hr-FA　…… 6 世紀初頭降下「榛名二ツ岳火山灰」
As-B　…… 1108 年（天仁元年）降下「浅間 B 軽石」
As-A　…… 1783 年（天明 3 年）降下「浅間 A 軽石」

目次

例言・凡例・目次
Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　調査の方法と経過……1
Ⅲ　遺跡の地理的環境と周辺遺跡……2
Ⅳ　基本堆積土層……4
Ⅴ　調査の成果……6
Ⅵ　総括　……8
写真図版
参考文献・抄録

挿図・挿表目次

第１図　周辺遺跡図（1/25,000）……3
第２図　遺跡位置図（1/2,500）……4
第３図　基本堆積土層　柱状図・写真……4
第４図　遺跡全体図（1/80）……5
第５図　１号竪穴状遺構　平面図・断面図（1/40）……6
第６図　１号竪穴状遺構　出土遺物図（1/3）……7
第７図　１～３号土坑　平面図・断面図（1/40）……7
第８図　４～８号土坑　平面図・断面図　７号土坑　出土遺物図（1/3）……8

第１表　１号竪穴状遺構遺物観察表（単位・cm）……7
第２表　７号土坑遺物観察表（単位・cm）……8
第３表　土坑計測表（単位・cm）……8

写真図版

PL1：空撮写真　PL2：調査写真　PL3：調査写真　PL4：調査写真・遺物写真

Ⅰ　調査に至る経緯

令和元年６月下旬、事業者である株式会社杜丸不動産から、高崎市箕郷町柏木沢において計画している宅地造成工事に先立つ埋蔵文化財の照会が高崎市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である新屋敷遺跡内に所在するため、工事前に文化財保護法第93条第１項の規定による届出が必要であることを伝えた。

令和元年７月29日、市教委に第93条第１項の届出、埋蔵文化財確認調査申請書が提出され、令和元年９月19日に確認調査を実施した。その結果、縄文時代の遺構を確認した。この結果をもとに事業者と市教委で協議したが、道路部分における遺構の現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお、遺跡名については「柏木沢中沢遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、令和元年12月２日に事業者株式会社杜丸不動産・民間調査機関有限会社高澤考古学研究所・市教委での三者協定を締結、事業者と民間調査機関の間で発掘調査の契約を締結し、調査実施にあたっては市教委が指導・監督することとなった。

Ⅱ　調査の方法と経過

高崎市教育委員会による試掘調査の結果、遺構確認面までは現地表から約80㎝下であることが確認されている為、令和元年12月25日に重機にて表土を除去し、遺構確認面まで下げた。その後、ジョレンを用い人力にて遺構確認作業を行った。結果、市教育委員会の試掘通り縄文時代の竪穴状遺構および土坑が検出された。

検出された遺構は埋没状況を確認する為、土層観察用のベルトを残しながら、掘り下げ作業を行った。全ての遺構は、トータルステーションを使用して平面図を作成し、断面図は手実測にて作成した。遺構撮影は、35㎜小型一眼レフカメラを用い、カラーリバーサル、モノクロームネガの２種類のフィルムを使用し、1010万画素の小型一眼レフデジタルカメラを併用した。全ての遺構の調査が終了した後、ラジコンヘリコプターにて空撮を実施し、併せて各遺構の全景撮影を行った。その後、基本土層を確認する為に深掘りを行い、令和２年１月21日に高崎市教育委員会の発掘作業完了確認を受け現地調査を終了した。

令和元年
12月24日　機材搬入　現場調査準備
12月25日　重機による表土除去作業開始　調査区内樹木（梅）の伐採作業
12月26日　重機による表土除去作業終了　基準水準点測量　遺構確認作業　現場養生作業
令和２年
１月７日　遺構確認作業再開
１月14日　１～５号土坑掘り下げ作業　土層断面撮影および計測作業
１月15日　６～８号土坑掘り下げ作業　土層断面撮影および計測作業
１月16日　１号竪穴状遺構掘り下げ作業　土層断面撮影および計測作業
１月20日　空撮準備作業
１月21日　空撮　トータルステーションによる各遺構平面測量　１号竪穴状遺構断割り調査
基本堆積土層確認深掘り作業　高崎市教育委員会による発掘作業完了確認
１月22日　重機による埋戻し作業　現場撤収作業　本日にて現地調査終了

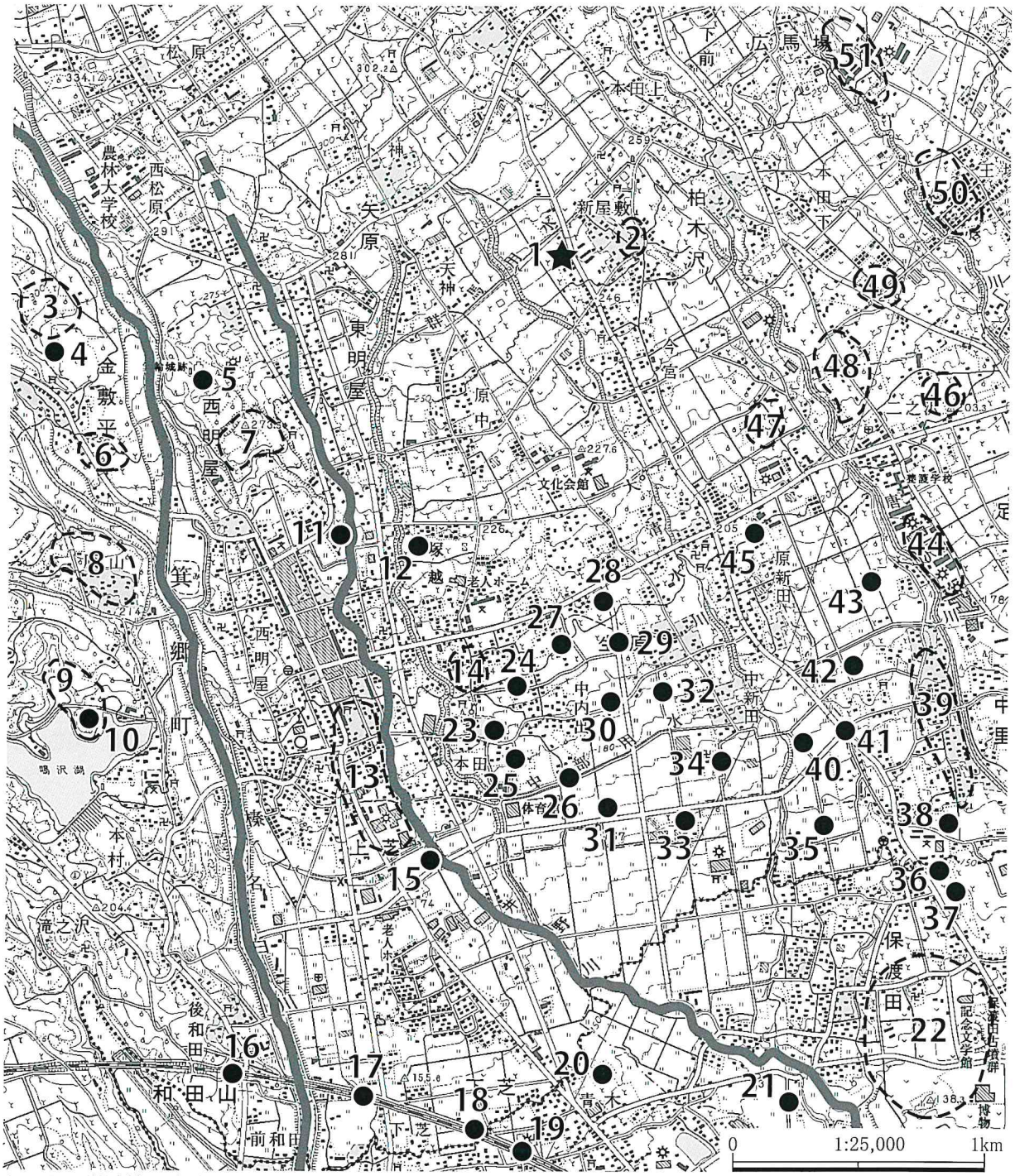
Ⅲ　遺跡の地理的環境と周辺遺跡

群馬県高崎市は、関東平野の北西端に位置しており、西に浅間山、妙義山、北に広大な扇状地を持つ榛名山、赤城山、そして南西から南方にかけては御荷鉾山系、秩父山系等の山々に囲まれ、南東に広大な関東平野を望むことができる環境にある。柏木沢中沢遺跡は、高崎市街地から北北西に約 10㎞の位置にあり、市立箕郷東小学校の北約 850m に位置する。

本遺跡がある箕郷町は、町を南流する榛名白川と井野川を境に地形が大きく異なっている。榛名白川右岸にみられる開析谷は十文字面とされ、起伏に富む古期の扇状地である。井野川左岸に広がる暖傾斜地は相馬ヶ原扇状地で榛名山（標高 1,448m）東南麓に広がっている。そして、榛名白川と井野川に挟まれた幅狭な扇状地地形が白川扇状地とされ、十文字面が形成された後、約 1.7 万年前の陣場岩屑なだれで相馬ヶ原扇状地が形成され、その上に古墳時代に起きた２度に及ぶ火山爆発によって引き起こされた泥流が堆積してできた地形である。下芝五反田遺跡（19）周辺では約４～5m 程の堆積が認められている。本遺跡は、相馬ヶ原扇状地を開析する唐沢川と井野川の支流である大清水川とに挟まれた台地上にあり、緩やかに南南東へ傾斜している。遺跡周辺の標高は 256.3 mである。

周辺では、縄文時代早期から草創期の石器および前期の土器が確認された生原 田島・大清水遺跡（45）があるが、生活の痕跡が認められるのは縄文時代中期頃からである。八反畠遺跡（29）では竪穴住居、保渡田Ⅱ遺跡（43）では敷石住居、飯盛遺跡（33）では埋設土器、善龍寺前遺跡（34）においては竪穴住居の他、配石遺構や埋甕が検出されている。また、当該期の包含層も海行Ａ・Ｂ遺跡（40・41）、飯盛遺跡、金敷平・長者久保遺跡（4）、生原・八反畠遺跡（28）等で確認され、周辺に縄文時代中期の集落が存在することを示唆している。弥生時代の遺跡は、標高 150m 以上の地域では確認されず、周辺では保渡田荒神前遺跡（35）にて弥生時代後期樽式期の住居が検出されているが、本遺跡に近接しての遺跡は認められない。古墳時代になり標高 150m 以上の地域は墓域として確立される様相を示し、多くの古墳（10 ～ 12･20･38）や、古墳群（2･3･6 ～ 9・13・14・39・44・46 ～ 51）が構築されるようになり、当該期に周辺を広域に治めた首長墓である保渡田古墳群（22）も本遺跡南 3.5㎞に構築されている。集落跡においても古墳時代以降増加し、下芝天神遺跡（18）、下芝五反田遺跡（19）では祭祀跡も検出されている。奈良・平安時代においては墓域とされていた標高の高い地域においても生活の場を求め開発されるようになり、遺跡は急増する傾向にある。中世になると本遺跡西約 1.5㎞には箕輪城（5）が築城され、飯盛遺跡では当該期の居館が確認されており、生原の砦（23）も存在する。このように周辺は縄文時代以降各時代において生活の痕跡が多く認められる地域である。

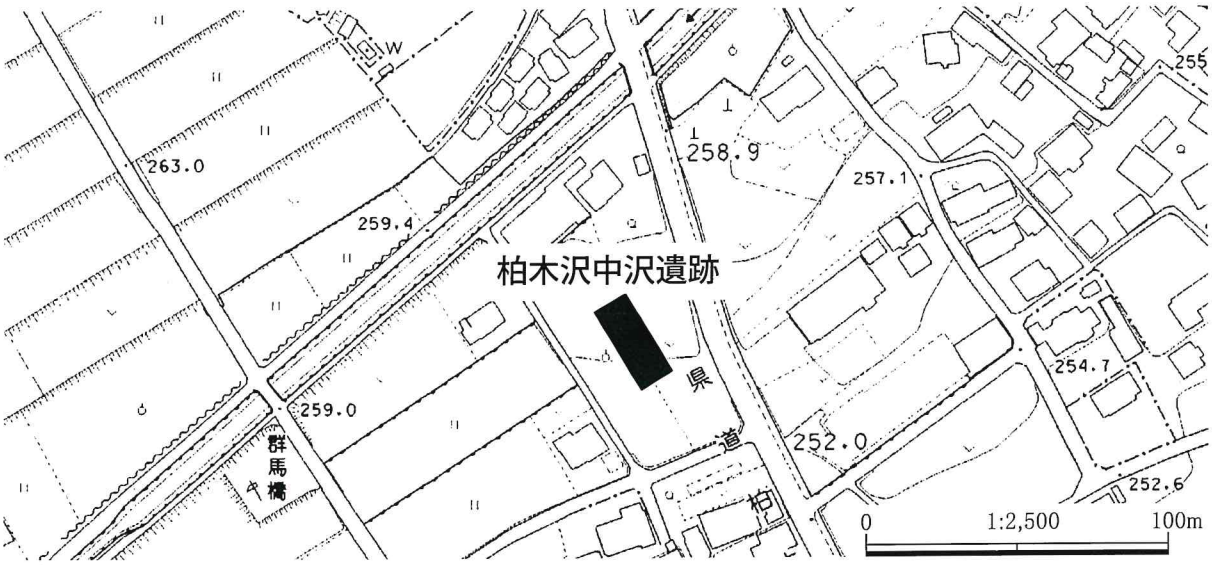
高崎市役所からの遠景



ドットは単独墳・遺跡　破線範囲は群集墳　トーン線は榛名白川・井野川　細破線は 150m 等高線

1. 本遺跡　2. 新屋敷古墳群　3. 長者久保古墳群　4. 金敷平・長者久保遺跡　5. 箕輪城　6. 街道東古墳群
7. 箕輪城下層古墳群　8, 原山古墳群　9. 鴨入古墳群　10. 京塚古墳　11. 椿山古墳　12. 行人塚古墳
13. 上芝古墳群　14. 本田古墳群　15. 上芝・西金沢遺跡　16. 和田山天神前遺跡　17. 下芝上田屋遺跡
18, 下芝天神遺跡　19. 下芝五反田遺跡　20. 下芝・谷ツ古墳　21. 保渡田・皿掛遺跡　22. 保渡田古墳群
23, 生原の砦　24. 生原・天神前遺跡　25. 薬師遺跡　26. 堀の内遺跡　27. 全徳森遺跡　28. 生原・八反畠遺跡
29. 八反畠遺跡　30. 諏訪遺跡　31. 佐藤遺跡　32. 中新田遺跡　33. 飯盛遺跡　34. 善龍寺前遺跡
35, 保渡田・荒神前遺跡　36. 保渡田・昌徳寺前Ⅱ遺跡　37. 保渡田・昌徳寺前遺跡　38. 大塚古墳
39. 屋鋪古墳群　40. 海行 A 遺跡　41. 海行 B 遺跡　42. 西芝遺跡　43. 保渡田Ⅱ遺跡　44. 足門村西古墳群
45. 生原 田島・大清水遺跡　46. 金井沢古墳群　47. 東谷古墳群　48. 下ノ原古墳群　49. 下ノ原Ⅱ古墳群
50. 王塚古墳群　51. 金井古墳群

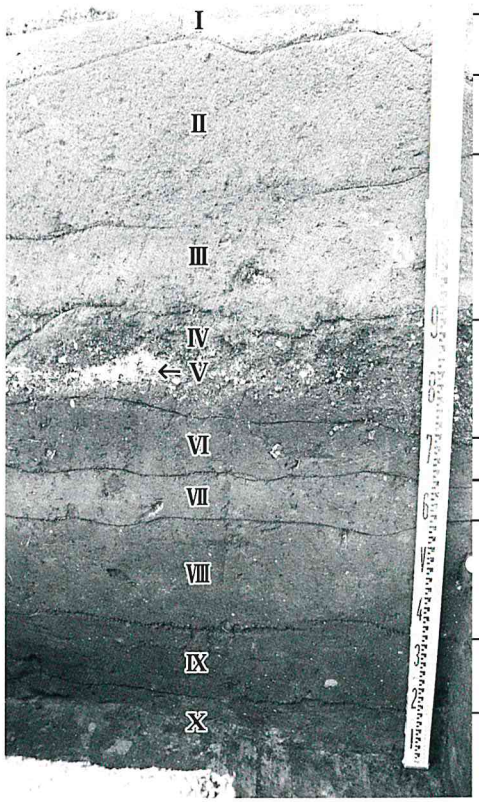
第 1 図　周辺遺跡図　(1/25,000)



第２図　遺跡位置図　(1/2,500)

Ⅳ　基本堆積土層

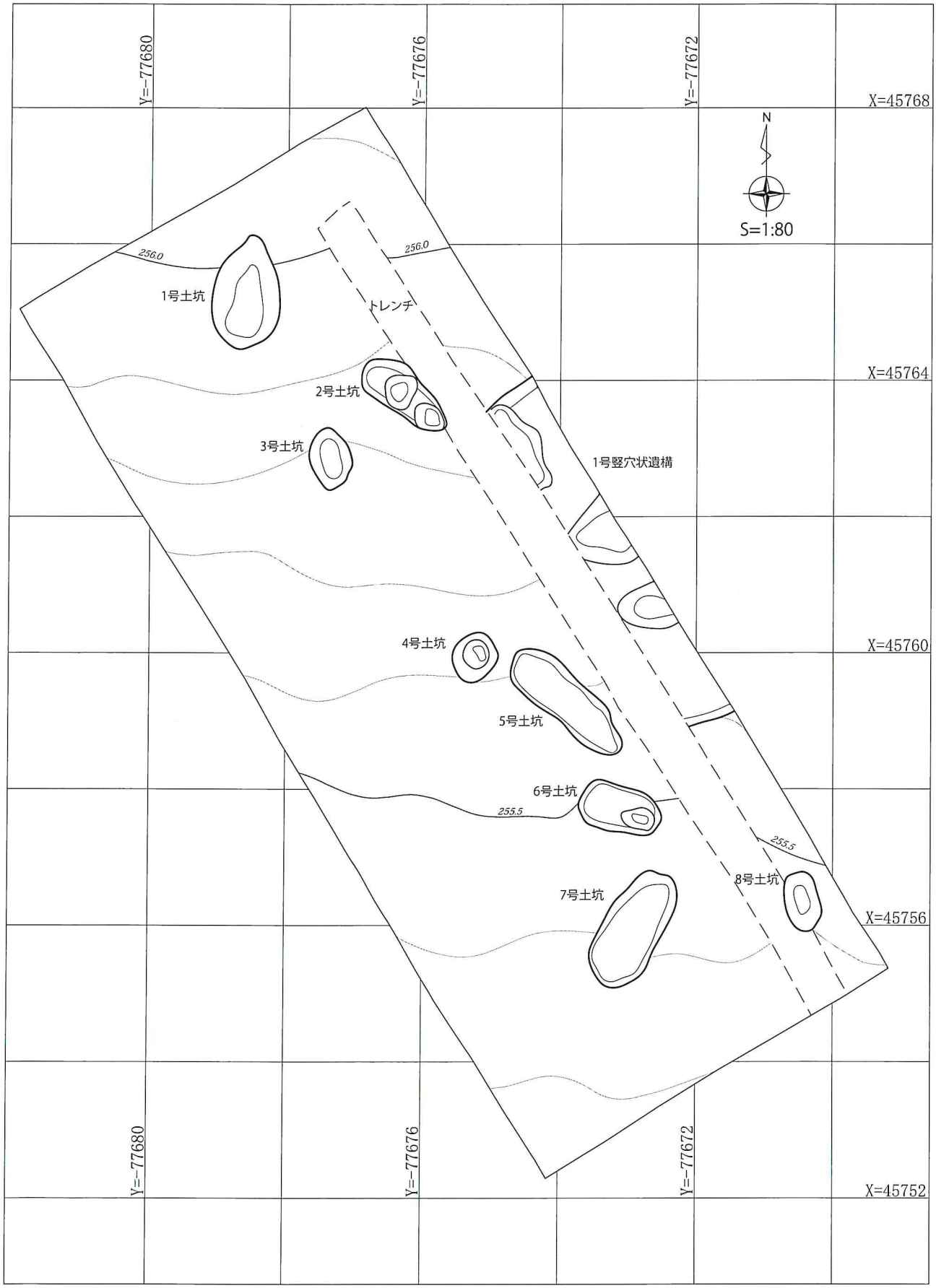
Ⅰ層は現表土で約５～10cm程堆積している。Ⅱ層はAs-A軽石とAs-B粒の混土で、比較的硬く締まっている。Ⅲ層はAs-B粒を含み、Hr-FA粒塊と考えられる褐色土小ブロックを多く含む層で、一部Hr-FAの純層状の堆積が認められる。Ⅳ層はAs-C軽石を多く含む黒色土で、一部凝集層として認められる。Ⅴ層はそのAs-C軽石の凝集層である。Ⅵ層は白色粒と褐色粒を少量含む黒色土で本層下が遺構確認面となり、現地表からは約80cm下である。Ⅶ層は褐色土で硬く締まり、白色粒と褐色粒を少量含む。Ⅷ層は黒褐色土で、白色粒と褐色粒を含む。Ⅸ層はⅧ層とほぼ同じだが、僅かに褐色土小ブロックが含まれる。Ⅹ層は非常に硬くしまり、褐色土小ブロックを多く含み、白色粒と褐色粒が含まれる。



Ⅴ　Ⅴ　Ⅴ　GL ＝ 256.3 m

Ⅰ 表土	現耕作土
Ⅱ 暗オリーブ褐色土層	As-A軽石とAs-B粒の混土
Ⅲ にぶい褐色土層	Hr-FA小ブロック・As-B粒の混土
Ⅳ 黒色土層	As-C軽石を多く含む（凝集層有）
Ⅴ 灰白色土層	As-C軽石凝集層（部分的に堆積）
Ⅵ 黒褐色土層	白色粒・褐色粒を少量含む GL － 80cm
Ⅶ 暗褐色土層	白色粒を少量含み硬く締る
Ⅷ 黒褐色土層	白色粒・褐色粒を少量含む
Ⅸ 黒褐色土層	白色粒・褐色粒を少量含む 褐色土小ブロックを含む
Ⅹ 暗褐色土層	褐色土小ブロックを多く含む GL － 130cm

第３図　基本堆積土層　柱状図・写真



第４図　遺跡全体図（1/80）

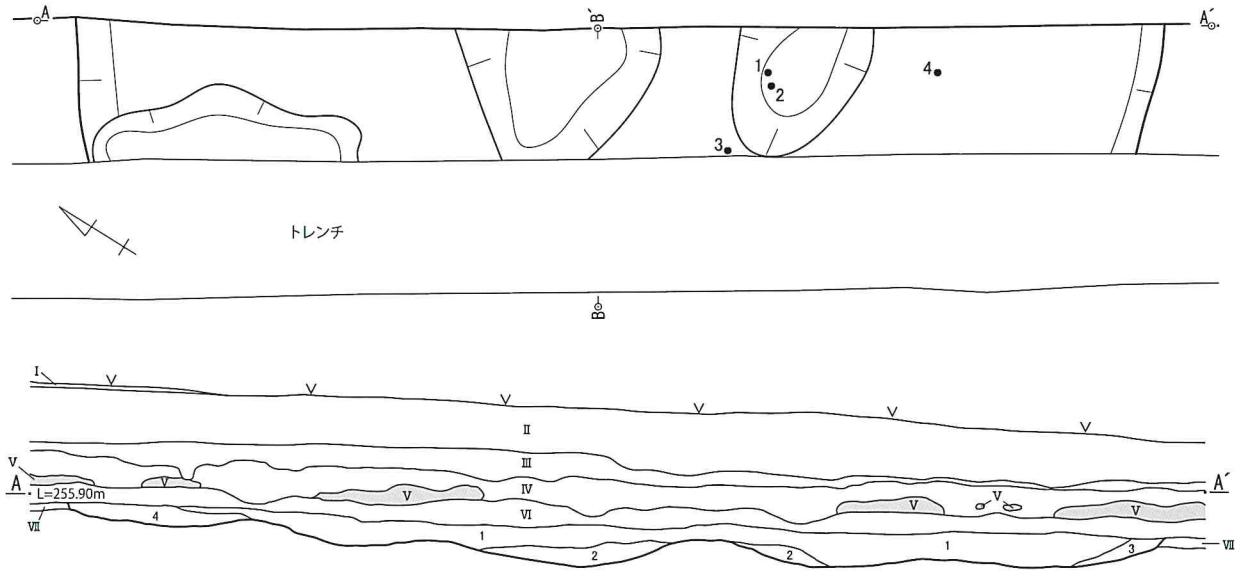
0　1:80　2m

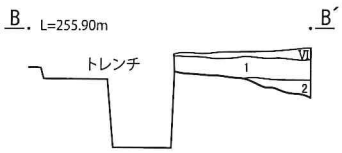
Ⅴ　調査の成果

発掘調査の結果、縄文時代中期中葉から後半の土器片が出土した竪穴状遺構１基と、土坑８基を検出した。調査区全域に As-C 粒を多く含む層（基本堆積Ⅳ層）が認められ、部分的に凝集層（基本堆積Ⅴ層）が確認される。各遺構は As-C 軽石層下のⅥ層を除去したⅦ層上面にて確認された。遺構確認面は緩やかに北西から南東方向に傾斜し、調査区内の南北での高低差は約 80cm である。遺構には伴わないが、調査区内からは基本堆積Ⅵ層除去中に縄文時代の土器片が数点出土している。また、弥生時代以降の遺物は認められなかった。

１号竪穴状遺構

調査区東側にて検出された。ほとんどが調査区外になる為詳細は不明であるが、規模は南北 5.75m、東西 70cm 以上で、確認面からの深さは約 23cm である。覆土は、白色粒と褐色粒がやや多く含まれ、締まった黒褐色土である。また、焼土粒および炭化物粒は確認できなかった。底面は、浅い土坑状の凹凸が複数あり平坦ではない。顕著な土坑は３ヵ所確認され、ともに不整形から楕円形で深さは 10cm 前後である。硬化面や炉跡、柱穴等は認められなかった。遺物は、中央南側の土坑状の窪みから多く出土し、一部重なった状態で検出された。出土位置は底面より若干上で、約 10cm 程の堆積層中で流れ込んだようにまとまって出土した。№１は上面で出土し、№２はその下からの出土である。また№２～５は同一個体が含まれると推測される。出土した遺物から帰属時期は加曽利ＥⅠ期並行と考えられる。

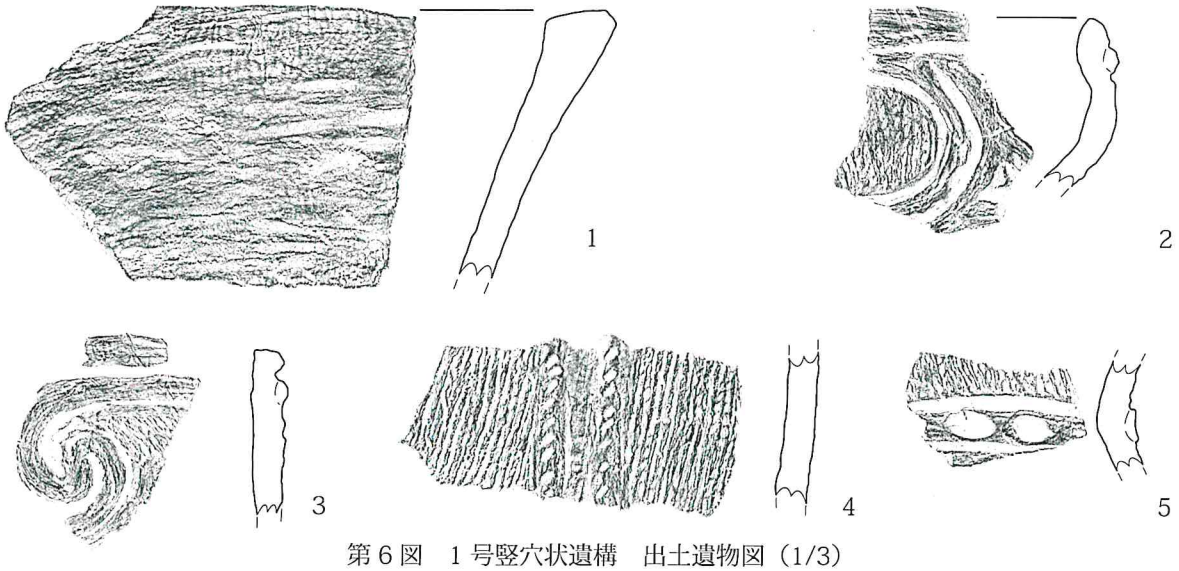




Ⅰ　暗褐色土　粘性弱・しまり弱　現耕作土
Ⅱ　暗オリーブ褐色土層　粘性弱・しまりややあり　As-A 粒と As-B 粒の混土。
Ⅲ　にぶい褐色土層　粘性弱・しまりややあり　Hr-FA 小ブロックと As-B 粒の混土。
Ⅳ　黒色土　粘性弱・しまりややあり　As-C 軽石を多く含む（部分的に凝集層あり）。
Ⅴ　灰白色土　粘性弱・しまり弱　As-C 軽石凝集層（トーン部）。
Ⅵ　黒褐色土　粘性ややあり・しまりあり　白色粒、黄色粒を少量含む。
Ⅶ　暗褐色土　粘性ややあり・しまりあり　白色粒を少量含み、硬くしまる。
1. 黒褐色土　粘性弱・しまりあり　１～3mm の黄褐色粒をやや多く含み、１mm 程の白色粒を少量含む。
2. 暗褐色土　粘性弱・しまりあり　１mm 程の白色粒を少量含み、褐色土小ブロックを含む。
3. 黒褐色土　粘性弱・しまりあり　１～3mm の黄褐色粒を少量含み、白色粒をわずかに含む。
4. 暗褐色土　粘性弱・しまりあり　黄褐色粒と白色粒を少量含み、褐色土小ブロックをわずかに含む。

0　1:40　1m

第５図　１号竪穴状遺構　平面図・断面図（1/40）　トーン部は As-C 軽石凝集層



第６図　１号竪穴状遺構　出土遺物図（1/3）

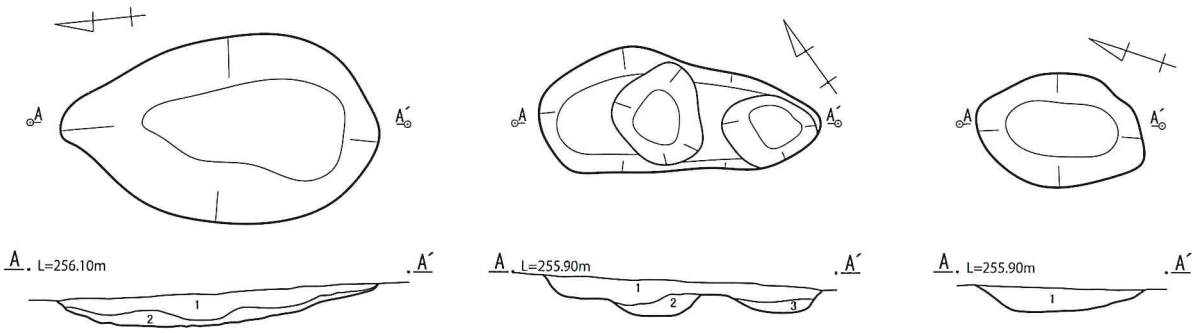
第１表　１号竪穴状遺構遺物観察表（単位・cm）

番号	種別 器種・部位	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成（質感） 色
1	縄文土器 浅鉢・口縁部	１号竪穴状遺構 覆土	－・　－ 〈10.7〉	外面：ヘラ状工具による横方向のケズリ後横方向の粗いミガキ 内面：横方向の粗いミガキ（磨滅顕著）	白色粒・黒色粒 雲母　・角閃石	良好（硬質） 暗赤褐色
2	縄文土器 深鉢・口縁部	１号竪穴状遺構 覆土	－・　－ 〈7.0〉	外面：撚糸文縦位充填施文後隆帯により楕円区画形成　隆帯頂部に半截竹管で強い沈線を施し２本単位の表現を示す 内面：口唇部から口縁部横方向のミガキ	白色粒・黒色粒	良好（硬質） 暗赤褐色
3	縄文土器 深鉢・胴部	１号竪穴状遺構 覆土	－・　－ 〈6.6〉	外面：撚糸文縦位充填施文後隆帯により小渦巻文形成　隆帯頂部に半截竹管で強い沈線を施し２本単位の表現を示す 内面：ヘラ状工具によるナデ	白色粒・黒色粒	良好（硬質） 暗赤褐色
4	縄文土器 深鉢・胴部	１号竪穴状遺構 覆土	－・　－ 〈5.9〉	外面：撚糸文縦位施文後２条の隆帯を垂下する　隆帯頂部には斜めの刺突文が施される 内面：磨滅が顕著	白色粒・黒色粒 雲母	良好（硬質） 暗赤褐色
5	縄文土器 深鉢・胴部	１号竪穴状遺構 確認面	－・　－ 〈4.4〉	外面：撚糸文縦位施文後横位に隆帯を配置　隆帯の際に半截竹管による沈線を施し頂部は指頭による押圧を施す 内面：粗い横方向のミガキ	白色粒・黒色粒	良好（硬質） 暗赤褐色

土坑

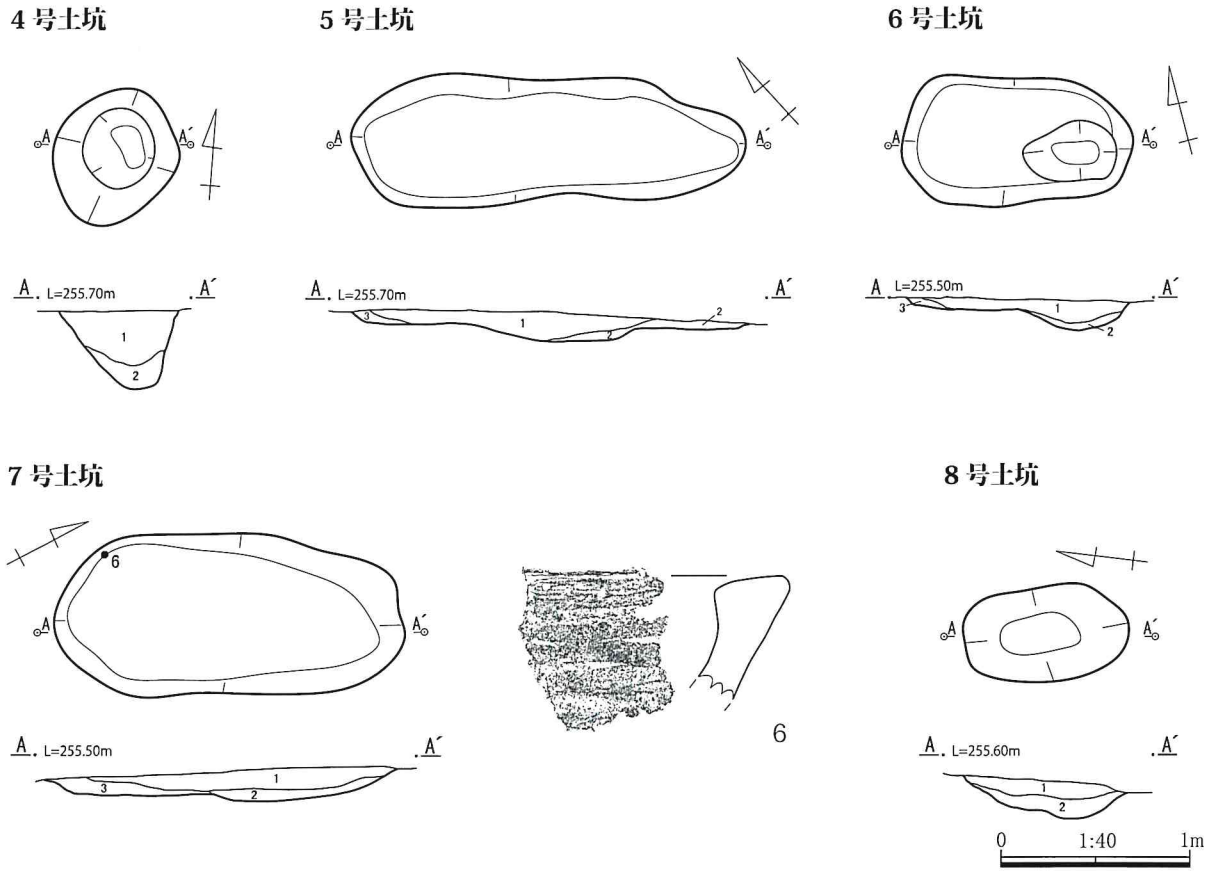
検出された８基の土坑は、全て基本堆積Ⅵ層を除去した後確認された。全ての土坑からは焼土粒および炭化物粒は確認できず、土層断面の観察から埋没状況は自然埋没と考えられる。７号土坑からは１号竪穴状遺構№１と同個体と考えられる口縁部片が出土している為、帰属時期は１号竪穴状遺構と同じ時期と考えられる。その他の土坑からは遺物は検出されなかったが、覆土の特徴が類似してる為、概ね同時期と推測される。各土坑は配置および規模等に規則性はなく、単体での存在と推測される。また、用途等は不明である。

１号土坑　　**２号土坑**　　**３号土坑**



全土坑共通
1. 暗褐色土　粘性弱・しまりあり　１～３㎜程の黄褐色軽石を少量含み、白色粒をわずかに含む。
2. 褐色土　　粘性ややあり・しまりあり　１～３㎜程の黄色軽石を少量含み、褐色土小ブロックをわずかに含む。
3. 暗褐色土　粘性ややあり・しまりあり　１～３㎜程の黄褐色軽石をわずかに含む。

第７図　１～３号土坑　平面図・断面図（1/40）



第８図　４～８号土坑　平面図・断面図（1/40）　７号土坑　出土遺物図（1/3）

第２表　７号土坑遺物観察表（単位・cm）

番号	種別 器種・部位	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成（質感） 色
6	縄文土器 浅鉢・口縁部	７号土坑 覆土	－・　－ ・〈5.5〉	外面：ヘラ状工具による横方向のケズリ後横方向の粗いミガキ 内面：横方向の粗いミガキか（磨滅顕著）	白色粒・黒色粒 雲母　・角閃石	良好（硬質） 暗赤褐色

第３表　土坑計測表（単位・cm）

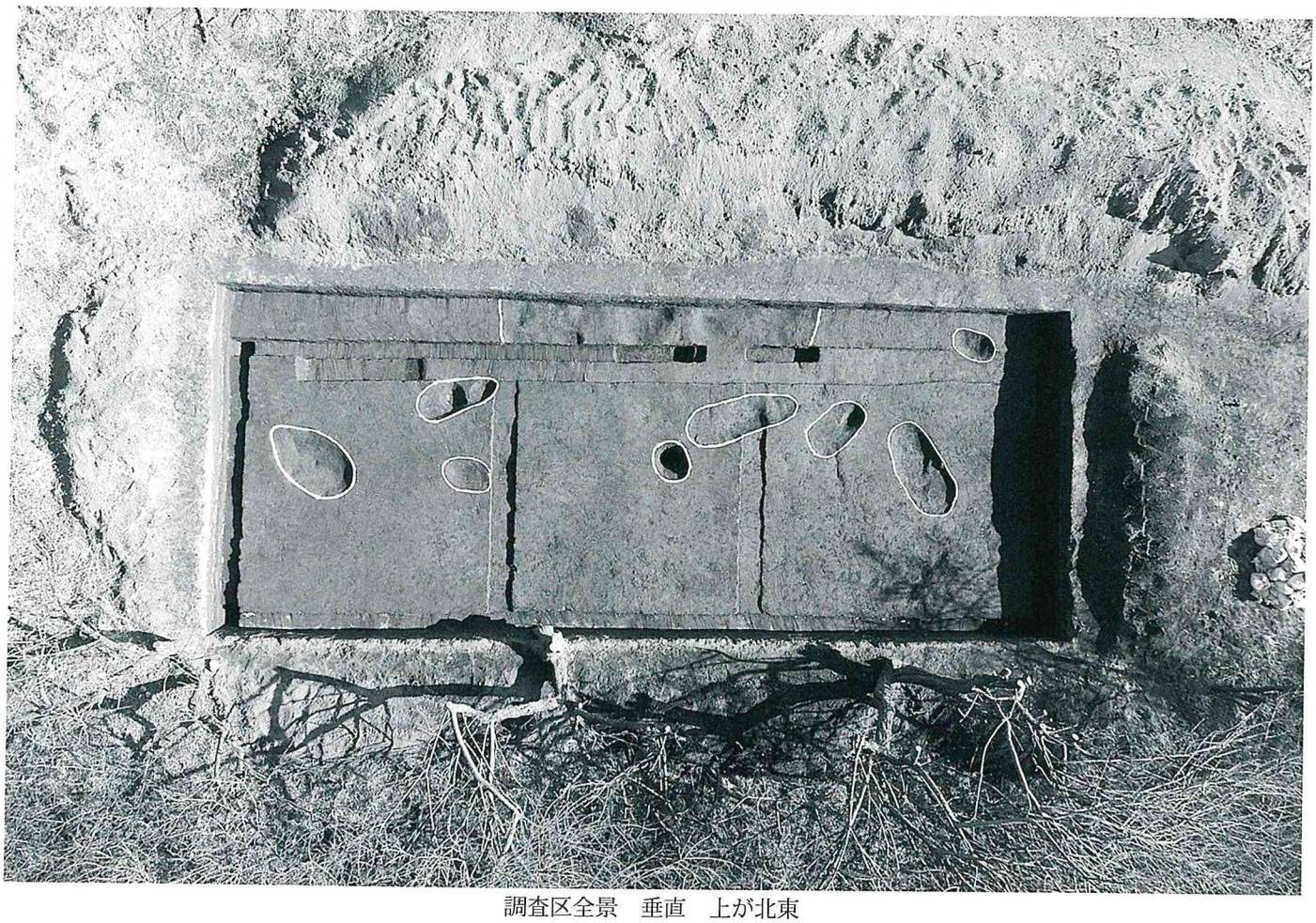
No.	平面形	断面形状	径	長軸	短軸	深さ	重複関係	覆土	備考
1	不整楕円形	皿状	－	169	101	17	－	黄褐色軽石・褐色土小ブロック	
2	不整楕円形	皿状・凹凸あり	－	148	67	20	－	黄褐色軽石・褐色土小ブロック	
3	楕円形	皿	－	92	61	13	－	黄褐色軽石・白色粒	
4	不整楕円形	U字状	－	75	65	42	－	黄褐色軽石・褐色土小ブロック	
5	長楕円形	皿状・凹凸あり	－	209	72	16	－	黄褐色軽石・褐色土小ブロック	
6	楕円形	皿状・凹凸あり	－	122	71	15	－	黄褐色軽石・褐色土小ブロック	
7	楕円形	皿状	－	185	84	17	－	黄褐色軽石・褐色土小ブロック	縄文土器片あり
8	楕円形	皿状	－	87	52	20	－	黄褐色軽石・褐色土小ブロック	

Ⅵ　総括

今回の調査で確認された遺物は、全て縄文時代中期中葉から後半のものに限定され、弥生時代～近現代までの遺物は確認されなかった。遺構確認面と７号土坑から出土した数片の他は、全て１号竪穴状遺構からの出土である。出土状態は１号竪穴状遺構の中央やや南側に集中して検出され、一部重なった状態で出土している。深鉢と浅鉢の破片が主で、窪みに流れ込んできたような状態である。また、覆土は土坑と酷似しており、住居的な要素を持つ遺構と考えるより、散在している土坑が複数集まって構成された遺構とも見て取れる。大半が調査区外になる為、判断はできないが、土坑群の可能性も考えられる。調査区の西側には遺構は無く、確認面からも土器は認められない為、今回検出された縄文土器の供給源とされる当該期の竪穴建物跡は、本遺跡の北東から東側にあるものと推測される。

写真図版

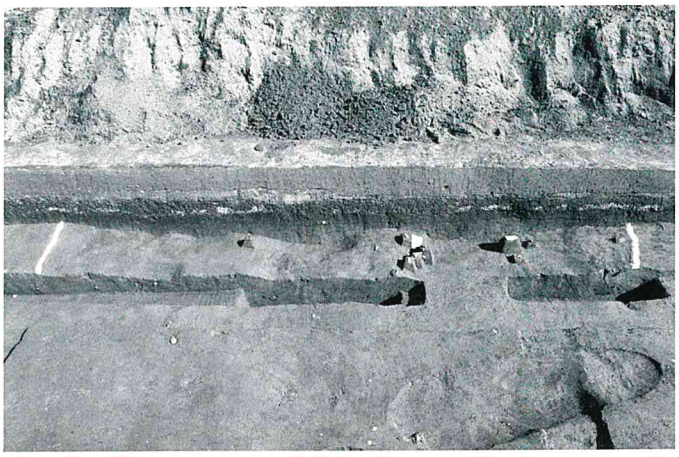
調査区全景　南東から



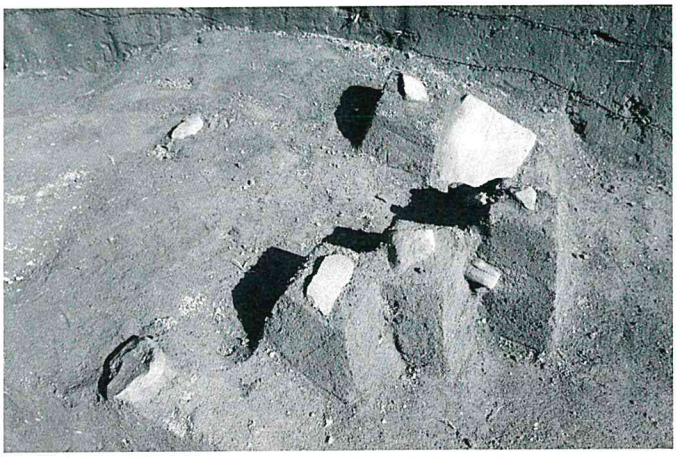
調査区全景　垂直　上が北東

1 号竪穴状遺構確認状況　南西から

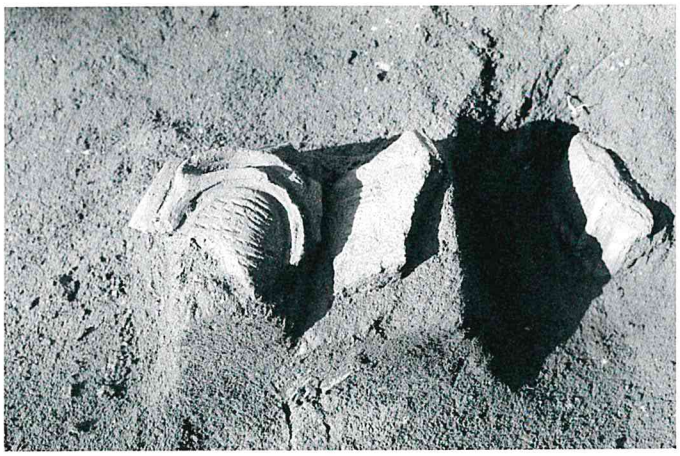
1 号竪穴状遺構 B セクション　南から



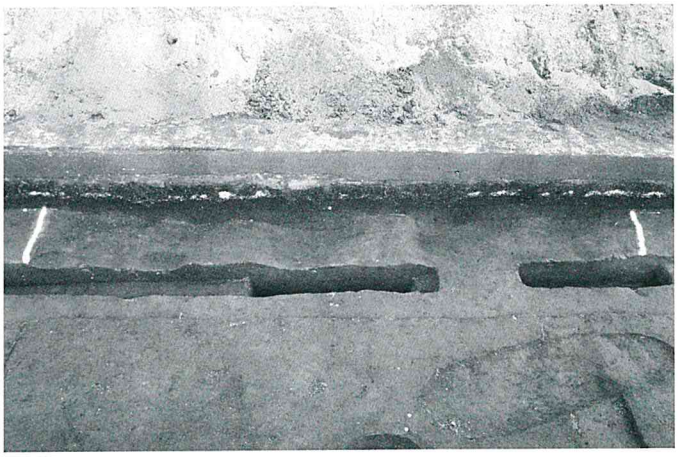
1 号竪穴状遺構 A セクション・遺物出土状況全景 南西から



1 号竪穴状遺構№1 他　遺物出土状況近景　南から



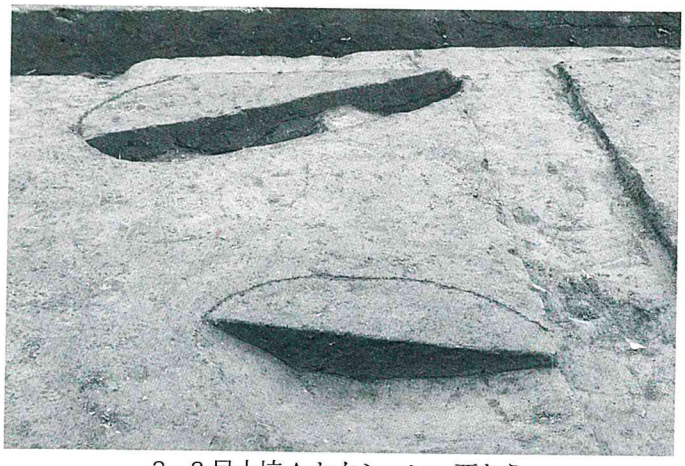
1 号竪穴状遺構№2 他　遺物出土状況　南から



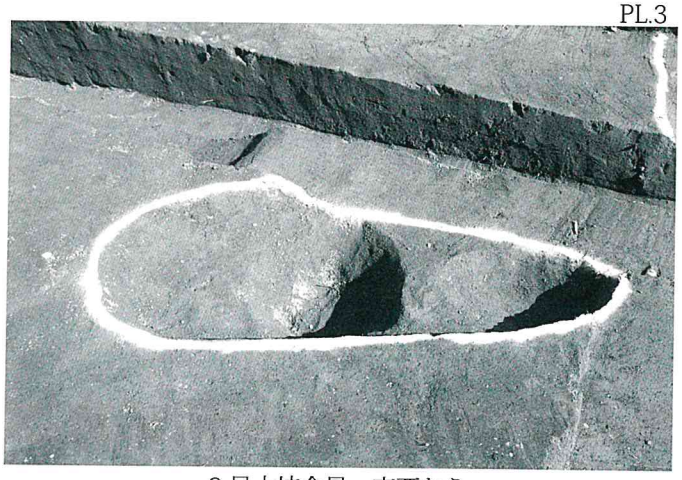
1 号竪穴状遺構全景　南西から

1 号土坑 A セクション　東から

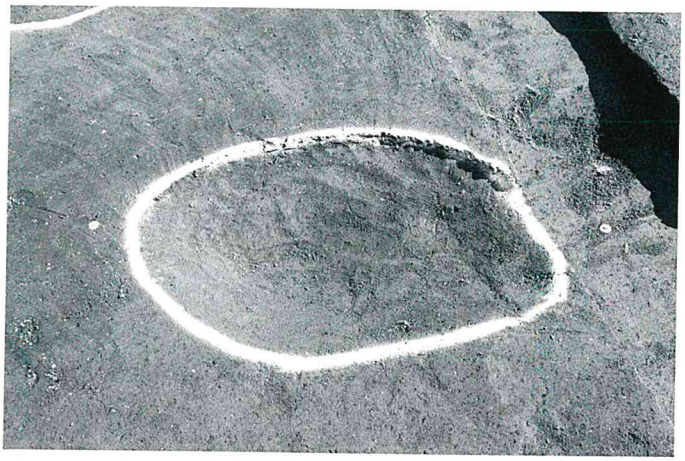
1 号土坑全景　東から



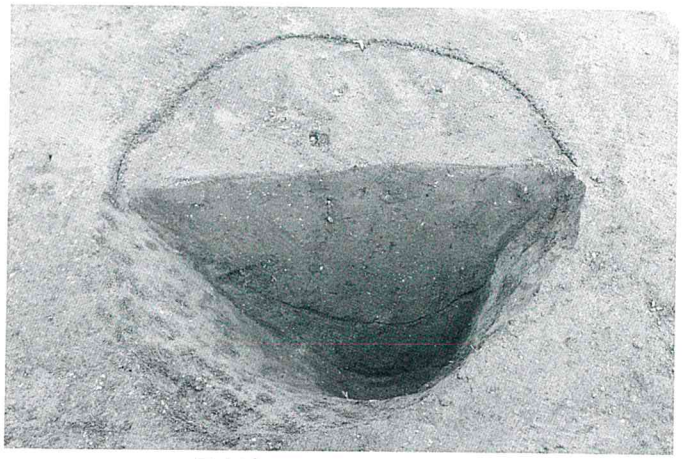
2・3号土坑Aセクション　西から



2号土坑全景　南西から

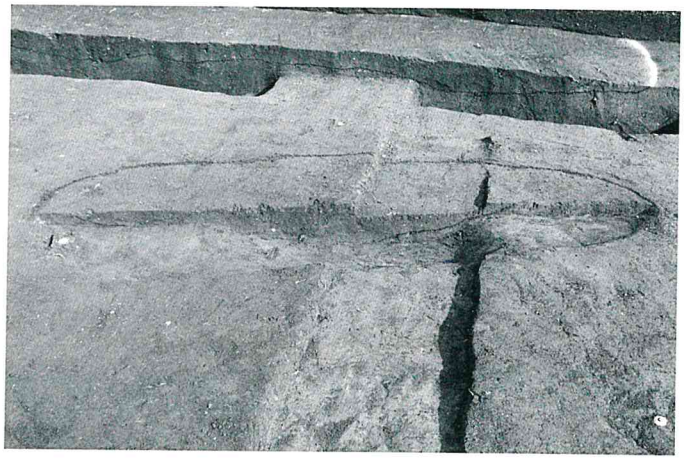


3号土坑全景　西から



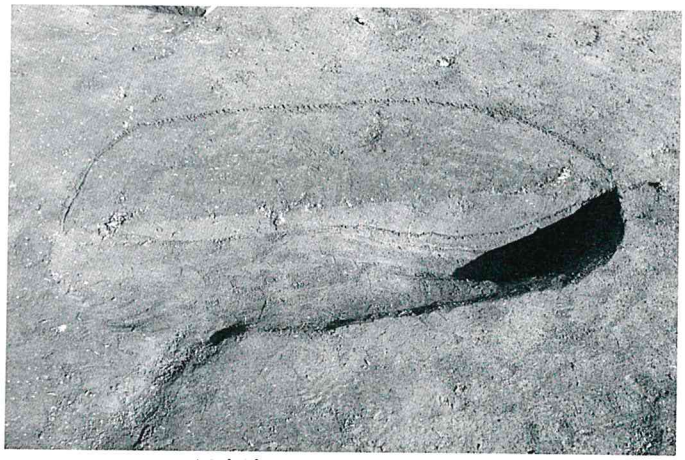
4号土坑Aセクション　東から

4号土坑全景　南西から



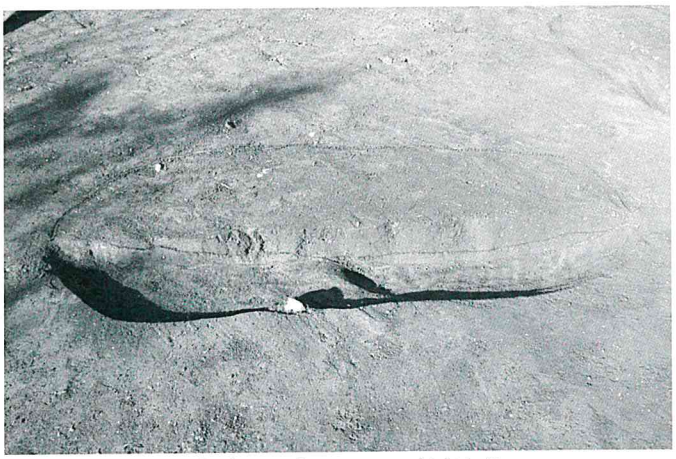
5号土坑Aセクション　南西から

5号土坑全景　南西から



6号土坑Aセクション　南から

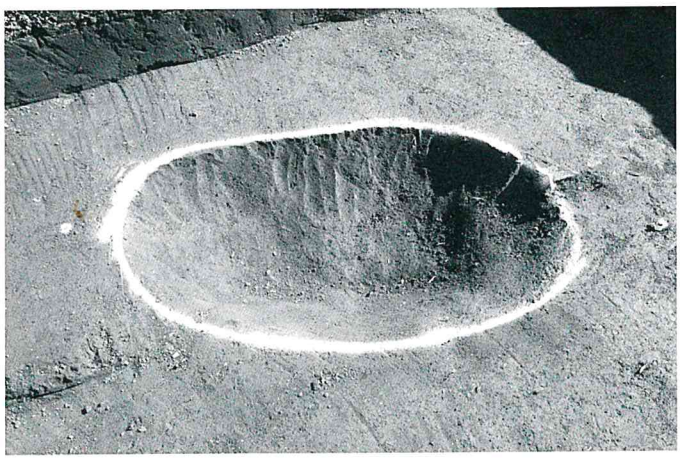
6号土坑全景　南から



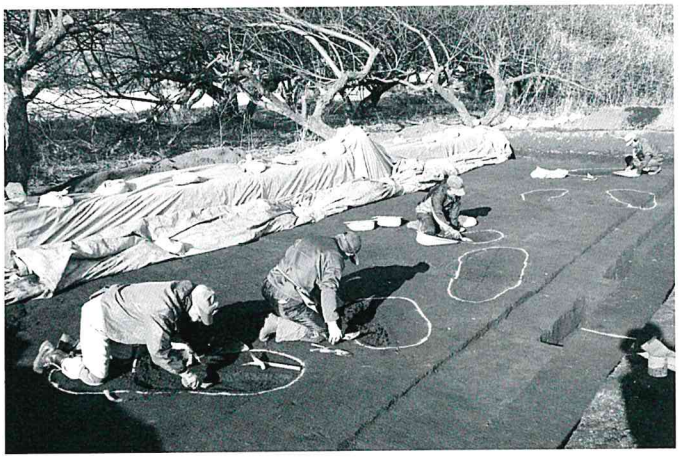
7号土坑Aセクション　南東から

7号土坑全景　北西から

8号土坑Aセクション　西から



8号土坑全景　西から



作業風景　南東から

1

2

3

4

5

6

出土遺物写真　1号竪穴状遺構№1～5　・　7号土坑№6

参考文献

箕郷町誌編纂委員会	1975『箕郷町誌』箕郷町教育委員会
田口 一郎・北條 元則ほか	1982『生原 田島・大清水遺跡』箕郷町教育委員会
田口 一郎	1988『海行A・B遺跡』 箕郷町教育委員会
榛東村誌編さん室	1988『榛東村誌』榛東村
群馬町誌編纂委員会	1998『群馬町誌　資料編1　原始古代 中世』群馬町誌刊行委員会
高崎市市史編さん委員会	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』高崎市
田口 一郎・日沖 剛史	2009『全徳森遺跡』高崎市教育委員会

報告書抄録

フリガナ	カシワギサワナカサワ　イセキ
書名	柏木沢中沢遺跡
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第466集
編著者名	澤田 福宏
編集機関	有限会社 高澤考古学研究所
編集機関住所	〒370-0005　群馬県高崎市正観寺町665番地8
発行機関	高崎市教育委員会　文化財保護課
発行年月日	令和3年（2021）年1月31日

所収遺跡名	柏木沢中沢遺跡						
所収遺跡所在地	群馬県高崎市箕郷町柏木沢字中沢183番7、186番1、187番1、189番9、189番10						
市町村コード	遺跡番号	北　緯	東　経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
102020	788	36°24′33″	138°58′2″	20191224	20200124	90㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
柏木沢中沢遺跡	その他	縄文時代	竪穴状遺構 土坑	縄文土器	標高256m前後での縄文時代中期中葉から後半の遺構 (加曽利ＥⅠ並行期)

— 柏木沢中沢遺跡 —

高崎市文化財調査報告書第 466 集

令和 3 年 1 月 25 日　印刷
令和 3 年 1 月 31 日　発行

発行　高崎市教育委員会
　　文化財保護課

編集　有限会社 高澤考古学研究所

印刷　上武印刷株式会社